

近年、退職代行サービスを利用して会社を辞める人が増えています。ある退職代行サービス会社では、4月11日の時点で新卒の利用者が180件になったとニュースになりました。事情があるにせよ、自分のことだけを考えて、一方的に退職していくのは、人権意識が欠如しているのでしょうかと思います。少なからずお世話になった会社のことは全く考えていません。自分だけよければよいという考え方が、その根本にあるように感じます。会社も人で成り立っています。社会人として、人を思う気持ちを、人権意識としてしっかり持ってもらいたいと願います。



本当の正義とは？

NHKテレビの連続テレビ小説「あんぱん」が、今年3月末から放映されています。主人公は、昭和・平成を代表する漫画家で『アンパンマン』の原作者である、やなせたかし氏とその妻・小松暢(のぶ)さんがモデルで、ドラマ向けに脚色されています。

アンパンマンが有名になったのは、昭和63年に日本テレビがテレビアニメを放映してからです。その頃から、日本中の子どもたちがアニメや絵本などを通じて『アンパンマン』に親しみながら育ってきました。

アンパンマンは、不思議なヒーローです。自分の顔(アンパン)を食べさせることによって、飢えている人を救います。でもアンパンマンは、おなかをすかせた人に食べさせて顔が無くなったりすると、力が出せなくなります。そこで、もういちど人を助けられるようにするために、ジャムおじさんに新しい顔をつくってもらいます。だれかを助けるアンパンマンは、だれかに助けられる存在でもあります。

やなせ氏は「わたしが正義について語るなら」という自著の中で、ご自身の戦時中の出征体験を踏まえて、「正義のための戦いなんて、どこにもないのです。正義はある日、突然逆転する。逆転しない正義は、献身と愛です。」「例えば、もしも目の前で飢えている人がいれば、一切れのパンを差し出すこと。それは、戦争から戻ってきた後、ぼくの基本的な考えの中心になりました。」と述べています。

いま、世界中で“飢え”により生命の危機にさらされている人が約7億人いると言われています。これは、世界で11人に1人、アフリカでは5人に1人の割合に相当します。特に、成長期の子どもの栄養不足は深刻な問題です。世界の5歳未満の子どもの4人に1人が、重度の“食の貧困”に苦しんでいます。(※1)

我が国でも、子どもの相対的貧困率は11.5%(2021年・厚生労働省調べ)と言われており、およそ10人に1人の子どもが十分に栄養バランスのとれた食事を与えられていない恐れがあります。

こうした世界各地での“飢え”を、私たちは無くしていくことはできるのでしょうか？いま世界では、毎年27億トンほどの穀物が生産されています。もし、これが世界に住む約80億人に平等に分配されていれば、1人当たり年間337kg以上食べられることになります。(※主食の穀物だけでなく、他の必要な副食の生産もまかなえます)

つまり、世界で全ての人々が十分に食べられるだけの食料は生産されているのです。(※2)世界の国々が「正義」の為に最優先で戦うべきは、“飢えの撲滅”ではないかと思います。



(※1) 国連ユニセフ「世界の子ども4人に1人『重度の食の貧困』」
<https://www.unicef.or.jp/news/2024/0081.html>



(※2) 認定NPO法人ハンガー・フリー・ワールド「世界の食料事情」
https://www.hungerfree.net/hunger/food_world/

人権移動教室の授業を受けた子供たちの感想文が、裏面にてご覧いただけます。



国連 NGO 横浜国際人権センター山梨ランチ
特定非営利活動法人横浜国際人権センター山梨

会長：横山隆史
理事長：横山美香

〒400-0031 山梨県甲府市上町 601-4 甲府市環境センター内 なでしこ工房 1 階事務室
TEL. 055-243-8563 FAX. 055-243-8564 <http://yamanashi.yihrc.or.jp/> E-mail. yamanashi@yihrc.or.jp

< 協賛 >
山梨県
甲府市
甲斐市

協賛企業：(株)メガ、(株)成心設備、西関東開発(株)、(株)ウィルマート、(株)R&C、(株)渡辺工業所、甲府市管工事協同組合、(株)とちの木、(株)ACL、(株)エスティケイ

人権移動教室に参加した子どもたちの感想文をご紹介します。

甲斐市立双葉中学校三年生女子

甲斐市立双葉中学校三年

氏名

人権講話を聞いて、バスや電車の中での気づかいの話について心に残った。私は前、学校からの帰り道に、重そうなごみ袋を持、たおばあさんが歩いて、重そうなのに気づいた。持ってあげて、ごみ捨て場まで運んであげようかなと思、たのだから、声をかけたら嫌かな、迷惑かられるかなと考えると、結局勇気が出ず声をかけることができなかった。すると、向こうから話しかけてくれて、とても良い人だと分かった。その後、私は声をかけて少しでも手伝ってあげれば良かったなと思、い後悔した。講師の方は、一回目に勇気を出せば二回目は一回目より上手くできるよ、うになり三回目は自然に体が動くようになる、とお、し、ていた。私があ、のとき勇気を出して、いれば、き、と私はも、とたくさんの人を迷わず助けてあげられるようになっていたと思、う。一人権尊重、という、人を大切に思、

う気持ち、を今回学ぶことができた。他にも、講師の方をデパートで助けてくれた女の子の話にも驚いた。私は、小学校や中学校で、今回のような人を大切に、尊重しよう、という内容の話を何回も聞いたことがあり、道徳の授業でもや、たか、そのようなことを進んでできることはあまりない。しかし、その女の子は五才くらい、と言、っていたので、き、とそのようなことを習、たことはないだろう。しかし、松葉づえをついた人を見た瞬間に体が動いたのだ。それを聞いて私は正直ショツクだった。そして、自分もそうなりたいと思、た。そのためには、自分が周りを困、ている人に気づかなければならない。そして、周りの人の目を気にせずに、自分がやらなければなら、ないと思、ったことをすぐ実行し、ま、うと思、た。今回の話を聞いて、人の大切さ、そして人を助ける人のす、さを改めて感じた。これから、この二つの話を思い出し、なから自分も相手も嬉、しくなる行動をしていきたい。